

障害者団体ヒアリング調査結果

1. 調査目的

幸田町内の障害者団体の方を対象にヒアリング調査を行うことで、公共交通を利用した移動の際の問題・課題や、福祉タクシー等の利用状況、利用の阻害要因、広報紙等の町の情報発信の認知状況を把握する。

2. 調査対象

幸田町内の障害者団体

- ・ 幸田町身体障害者福祉協会
- ・ 幸田町手をつなぐ育成会
- ・ 幸田町聴覚障害者福祉協会

3. 調査方法

障害者団体の担当者の方にヒアリング調査を実施した。

4. 調査結果

調査結果の概要は以下の通りである。詳細は次頁に記載する。

■公共交通を利用した移動の際の問題・課題

- ・ えこたバスについては、バス停への椅子や日除け等の休憩施設、筆談ボードやバスロケーションシステム等の機能に対するニーズが存在。
- ・ 鉄道については、三ヶ根駅のエレベーター設置に関するニーズが存在。

■福祉タクシー等の利用状況、利用の阻害要因

- ・ 自家用車による送迎が主な移動であり、タクシーを利用することへのメリットの少なさに対する指摘が存在。
- ・ 余暇的な移動にタクシーチケットを利用することに対する遠慮も一部存在。

■広報紙等の町の情報発信の認知状況

- ・ 幸田町の広報誌は、日常的に活用されている。
- ・ 障害者に関する情報として、中日新聞の西三河版も一部確認されている状況。

公共交通を利用した移動の際の問題・課題	■えこたんバスについて ・バス停が狭いところにあり、例えば草が生えていると道路に少しはみ出して待たなければいけない場所もあるので、バス停前の草を刈って欲しいと思ったことはある。また、<u>椅子や日除け</u>もあると良いと思う。 ・緊急時の対応といった点で、バスの運転手の方が、<u>耳が聞こえない人に対して、最低限の対応</u>ができるかどうかも重要だと思う。例えば、<u>伝言ボード</u>のようなものがあれば良いかなと思う。<u>筆談用のタブレット</u>でも良いと思う。高齢者の方は、文字を打つことが難しいと思うので、指差しボードのようなものを作っておくと良いと思う。(聴) ・<u>バスを待っている間の対応</u>として、名古屋駅にあるような<u>バスロケーションシステム</u>みたいなものがあると良いとは思う。(聴) ■鉄道について ・電車の遅延・運休等の緊急時の対応で苦勞することが多い。緊急時はアナウンスが多分あると思うのだが、耳が聞こえないので、何があったかを把握することが難しい。目で見えてわかる情報が欲しいなと思っていて。スマートフォンを持っている方は、ある程度は大丈夫だと思うが、持っていない人は大変だと思う。(聴) ・電車の遅延情報を周知する際に、伝言板をもう少し活用しても良いのではないかなと思う。(聴) ・<u>三ヶ根駅は「エレベーターが無いから足が悪い人は大変」</u>と聞いたことがある。また、駅員の方がいない無人駅なので、何かあった時に聞くことができないのは課題だと思う。(聴) ・<u>三ヶ根駅にはエレベーターが無い</u>という話はよく聞いている。(手) ・幸田駅は、トイレが狭くて使いにくいなと思うことがある。地下通路の階段が浅く過ぎて危ないと思うことはあった。(聴)
福祉タクシー等の利用状況、利用の阻害要因	・障害を持っている場合、自動車の運転免許が取得できない場合もあるので、<u>自家用車を使って両親が送迎する場合はほとんど</u>である。また、障害者割引のなかには、有料道路通行料金の減免や自動車税の減免がある。(手) ・福祉タクシーチケットを利用している人が少ない理由としては、障害者手帳による高速道路や自動車税の減免をする人が多く、<u>タクシーを利用することに対してメリットが少ないため</u>だと考えられる。(身) ・外食などの余暇的な移動の時や、家族の送迎が難しい時に、福祉タクシーチケットを利用している人がいると聞いたことはあるが、数としてはさほど多くはない。(身) ・<u>福祉タクシーチケットを余暇的な移動で使うことに対する遠慮</u>はあると思う。(身) ・単身の障害者の方には、福祉タクシーを使っている人もいるが、あまり多くはない。<u>余暇時間に飛行場などに行く際に福祉タクシーチケットを活用</u>しているという話は聞いたことがある。(手)
広報紙等の町の情報発信の認知状況	・行事の情報は、<u>幸田町の広報誌を基本的に活用</u>している。広報誌はとても見やすくて良い。(聴) ・緊急の場合は、タウンメールを確認している。(聴) ・最近、幸田タウンプロモーションのYoutubeを見始めた。字幕がついていないので、字幕を付けて欲しいなと思っている。(聴) ・幸田町のHPはたまに見ることがある。主に、福祉課の申請関係で利用する。(聴) ・<u>幸田町の広報誌</u>には、よく目を通してしている。(手) ・中日新聞の西三河版には、障害者の話がよく出てくるので目を通すことがある。(手) ・<u>幸田町広報誌やJAの広報、中日新聞の西三河版</u>は基本的に活用している。(身) ・回覧板などの家に届く紙媒体は確認している。(身)
その他	・耳が聞こえない場合、電話を掛けてタクシーを呼ぶこと自体で苦勞することが多い。今は、電話リレーサービス等があるが、サービスを知らない人や、代わりに電話をお願いしている人もいる。もう少し、タクシー等を呼びやすい状況になると良いなと思う。(聴) ・タクシーの車内に、耳が聞こえない人への対応として、筆談ボード等が置いてあると良いかなと思う。(聴) ・ボランティア祭りには障害を持った人も何人が集まると思うので、その際には、福祉タクシーやえこたんバスの情報を発信すれば、利用者の増加にも繋がるのではないかなと思う。(聴) ・障害がある小学生・中学生・高校生(6歳～18歳)を対象とした送迎サービスとして、「放課後等デイサービス」がある。一方で、成人になり一般就労をしている方には、そういったサービスはあまりないので、苦勞が多いと思う。(手) ・福祉サービス事業所の多くは、送り迎えをやっていると認識している。そういった意味では、福祉的就労の方については、ある程度日常生活的なところでは移動の足が確保されていると捉えることもできる。また、病院などの個人都合で移動する場合は、家族の方が送り迎えをしているケースが多い。(手)

(聴)：幸田町聴覚障害者福祉協会 (手)：幸田町手をつなぐ育成会 (身)：幸田町身体障害者福祉協会